



東日本大震災から10年 — 人間の復興、そして未来へ —

10年前「千年に1度」と言われた大震災が東北地方へ大災害をもたらしました。多くの方々は、この10年間懸命に耐え忍びながら、世界そして身近な方々から、沢山の励ましを送っていただき、幾度も立ち止まり振り返りながら、絆の深さに感謝しこの日を迎えることができました。

10年経って流れてくる涙があります。
10年経って語れる体験があります。
10年経って振りかえることができる時間があります。
毎年この“時”が近づくと心が揺れると話していただきます。

大震災の教訓を断じて風化させない。一人一人に寄り添い
続けてまいります。

小田島久美子



荒浜記憶の鐘 モニュメント

想いを紡ぐ10年誌

公明党宮城県本部の10年誌
【～想いを紡ぐ／人間の復興、
そして未来へ～】を市長に贈呈。

有識者の特別寄稿や特別対談。テーマ毎の
10年の歩みがまとめられています。

公明党宮城県本部「復興10年委員会」
11名の議員と職員は、昨年6月から活動を
開始。県内各地への



市長へ記録誌を贈呈

取材やコメント・執筆
の依頼、原稿づくり、
全て手作りの至極の
一冊となりました。



震災遺構 中浜小学校

旧中浜小は海から約400メートルの場所
にあります。その時、津波第3波は2階建て
校舎天井近くの20メートルに到達。とっさの
判断で屋上に避難し、児童59人と職員、住民
等、約90人の命が救われました。震災の風化
防止と防災意識の向上を目的に、防災教育・
震災伝承の場として一般公開。



3.11の津波被害を伝える震災遺構・中浜小学校



【予算等審査特別委員会】

～議会質問～

不登校対策支援

質問概要

- 市民団体による「不登校4000人アンケート報告書」と行政調査からの読み取りについて
- 不登校対策を効果的に進めるための実態把握の必要性と調査方法などについての考え
- フリースクールとの連携についてこれまでの状況
- フリースクール、不登校家庭への財政的支援・経済的支援について

市長は「不登校対策の推進」について重要課題と捉えている。「多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク」の報告書など、当事者の声や実態の把握についてどう捉えているかを重点的に質問。

答弁概要

- 行政と市民団体、それぞれの調査は対象が異なり、比較・分析は難しいと考えるが、両方の調査から状況を多面的に捉えられる
- 無記名アンケートなど調査方法を工夫する
- 民間施設との情報交換会を年2回実施。保護者や学校への情報提供を働きかけている
- 国の枠組み等が示されたら方向性を検討する

市長は「学びの環境を整えていかねばならないという強い思いがある」とも答弁。国では教育機会確保のための調査研究が進んでおり、国の動向を踏まえて、本市の方向性やガイドラインについて検討したいとの考えを強調されていた。

意見

教育構想のパブリックコメントに、不登校の子どもたちの居場所として、希望の学校をつくりたいとの意見があった。学徒仙台。すべての子どもたちが、ありのまま輝くことができる、多様な機会に応じた学びの環境を構築していただきたい。



質問・答弁抜粋

質問：民間施設へのアンケート調査で支援状況を把握。フリースクールのガイドラインを作成することを提案するが如何か。
答弁：国の調査研究等の動向を踏まえて、ガイドラインについても検討してまいりたい。

質問：広島県の平川教育長の意見聴取を傍聴した。深い決意で、一つ一つ積みあげていた。長の一念が、どれだけ大事かということを実感した。仙台においても子どもたちの教育環境に、一人一人がりのままでも光が等しくつながることを願う。どのような教育長の任命とするのか伺う。

市長：教育は本市の未来を担う人を育てる行政分野の中でも重要なものと認識している。子ども達が夢や希望をしっかりと持って、それぞれの能力を発揮できるように育てていくということだと思っている。教育長には、子ども達や教職員と丁寧に向き合ってもらい、きめ細かく実情をとらえながら対応することはもとより、学校、社会教育施設など広範にわたる組織をマネジメントしなくてはならない。高い識見を持つての行動力も不可欠であろうと思っている。

詳しい質問・答弁の内容はこちらから▶



町内会等地域対策と行政手続きのデジタル化

質問概要

- 事業に対する課題認識
- 青葉区宮城地区の「電子回覧システム」の試験導入をどう発展させるか
- 集会所の建設補助費の引き上げについて
デジタル化や集会所の整備について、具体的なイメージの有無や、現場との認識が合致しているかの確認等を行った。大阪市、札幌、さいたま市など他の政令市における集会所への助成について事例も調査・報告。

答弁概要

- 地域の繋がりは大変厳しい状況にある
- 費用対効果の面も十分に考慮し、デジタル技術の導入を積極的に検討する
- 町内会を含めた地縁団体との連携を一層強め活動を支える
集会所の建設補助費については800万円の場合から、1000万円へ引き上げとなった。

質問・答弁抜粋

質問： 市政・議会だより、電子メール配信サービス、こういったものも戸別配布か、町内会配布か選択できるシステムも必要。各種住民サービスなど、情報提供の手続きもオンライン化の検討を進めるべき。

答弁： 現在、「(仮称)仙台市DX推進計画」策定に向けた検討作業が庁内で進められているが、行政手続き・市民サービスのデジタル化が、主要な取り組み項目として挙げられている。特に、パソコンやスマホを通して、ご自宅等から証明書の請求などをオンラインで行える仕組みの導入など、本人確認をどう行うかといった課題があるが市民の利便性向上に資するものと考えている。「メール配信サービス」の更なる活用も含め、デジタル技術の導入を積極的に検討する。

除雪・凍結防止対策

新屋敷八乙女線

勾配率9%

新屋敷八乙女線の状況を写真資料で説明

新屋敷八乙女線
下り坂車線



質問概要

- 急勾配道路とその凍結対策について
- ロードヒーティングの不具合や積雪時の事故について
積雪時による危険個所の現状確認と対策について質問や要望を出した。

答弁概要

- 除雪・凍結防止対策への意見は多数。対策の必要性があり施工を計画する現状と課題の確認を通して具体的なすり合わせとなった。

質問・答弁抜粋

質問： 急勾配の道路路面には、道路自体に凍結抑制効果がある舗装対策が必要と思う。

答弁： 新屋敷八乙女線については、道路勾配が急なことに加え、カーブがあることから、一時的に車両が登れなくなるなど凍結抑制対策が必要。舗装改修凍結抑制対策を検討する。

仙台未来フォーラム 2021参加

仙台から発信できること!!未来につながることを願い、国連防災世界会議の仙台開催2016年3月から毎年開催。「オンライン発表」「ワークショップ」「ステージショー」「ブース・ポスター展示等」等。子どもたちや学生等も発信する側として参加。



大雪対策、除雪融雪事業等の 緊急要望

北中山・西中山・実沢区民会との合同陳情書提出。



集会所建設補助金 上限額増額へ!

館1丁目町内会要望書提出。新築費用が現行の上限800万円から1千万円に引き上げ!!決定!!



飲食業団体懇談会

宮城県調理師会の代表と資金繰り支援等対策の要望等意見交換。



不登校対策 教育長を 交えての意見交換

「MIYAGI 子どもネットワーク」の斎藤昭雄理事とフリースクール市民団「多様な学びを共につくるみやぎネットワーク」の方々と教育長を交えての不登校対策支援について意見交換。



放課後ケアネットワーク仙台と 意見交換

放課後等デイサービスにおける、2021年報酬改定内容と事業所への影響について、熊谷代表から公明党仙台市議団として意見聴取を行いました。

